

第59回全国母子生活支援施設研究大会 開催要綱

大会テーマ

家族を支える支援をめざす

～私たちのめざす母子生活支援施設（ビジョン）の実現をとおして～

1. 趣 旨

現在、子どもや子育て家庭を取り巻く状況は大きく変わり、増加する児童虐待相談数やDV被害相談件数、50%を超えるひとり親世帯の相対的貧困率等、危機的な状況にある家族は今後も増え続けると想定されます。このような状況のなか、平成26年8月には、子どもの貧困対策に対する大綱について閣議決定がなされ、平成27年4月からは子ども・子育て支援新制度が施行されました。

また、平成27年度の厚生労働省予算においては「社会的養護の課題と将来像」（平成23年7月）で示された母子生活支援施設等の職員配置の改善をはじめとする養育・支援の質の向上のための予算措置が行われることとなり、わが国の子ども家庭福祉、社会的養護は大きな転換期を迎えました。

全母協においても、子ども、ひとり親世帯を取り巻く状況を鑑み、これからの母子生活支援施設はどうあるべきか、支援のあるべき姿を明らかにすることを目的に平成25年度から26年度の2か年にわたり「私たちのめざす母子生活支援施設（ビジョン）」（以下、ビジョン）を取りまとめました。一方で、母子生活支援施設に求められる役割や支援内容が明確化された「母子生活支援施設運営ハンドブック」（平成26年3月厚労省）の策定、加えて、第三者評価受審や自己評価の義務化等により、「母子生活支援施設運営指針」等で示された支援の実施と、支援の質の向上については、各施設に確実な取り組みが求められています。

本研究大会では、ビジョンの具体的な実現について、インケアの充実、地域のひとり親家庭へのアウトリーチ、ひとり親家庭支援センター等、切れ目のない支援に向けた取り組みを研究討議し、地域から家族を支援している児童福祉施設として信頼得る施設運営の推進を目的に開催します。

2. 主 催

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国母子生活支援施設協議会
社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会（調整中）

3. 後 援（予定）

厚生労働省、愛知県、名古屋市
全国母子寡婦福祉団体協議会、全国母子・父子自立支援員連絡協議会

4. 期 日

平成27年10月15日（木）～16日（金）

5. 会 場

「ホテルメルパーク名古屋」 〒461-0004 名古屋市東区葵 3-16-16 Tel.052-937-3535

[最寄駅] JR名古屋駅から中央線で8分「千種駅」下車（地下鉄1番出口前）

地下鉄東山線「千種駅」下車 1番出口前

※周辺地図等詳細はお申込み受理後、参加券等とあわせてお送りします。

6. 参加対象（定員 250 名）

- (1) 母子生活支援施設の役職員（法人の役員および施設長、職員）
- (2) 都道府県・指定都市・中核市・市区町村行政の母子・児童福祉関係者
- (3) 社会福祉協議会の母子・児童福祉関係者
- (4) 児童養護施設等の社会的養護を担う児童福祉施設の役職員、里親及び関係者
- (5) 母子・父子・寡婦福祉団体関係者、民生委員・児童委員、母子・父子自立支援員 等

7. 参加費 17,000 円

8. 交流会費 8,000 円（宿泊・昼食代等は別途申込書をご参照ください。）

9. 日程、プログラム

【1日目：10月15日（木）】

| | |
|-------------|--|
| 12:00～13:00 | 受付 |
| 13:00～13:30 | 開会式・永年勤続表彰 |
| 13:30～14:15 | 行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課 |
| 14:15～15:15 | 基調報告 全国母子生活支援施設協議会 会長 大塩 孝江 |
| 15:15～15:30 | 休憩 |
| 15:30～17:30 | シンポジウム「地域を耕すために、専門性を生かしたアウトリーチの展開 ～ビジョンに向けた具体的、先駆的な取り組み実践事例～」 〔コーディネーター〕 神奈川県立保健福祉大学 顧問 山崎 美貴子 氏 〔シンポジスト〕 北海道・函館高砂母子ホーム 施設長 菊地 和子 氏 千葉県・旭ヶ丘母子ホーム 施設長 友田 直人 氏 公益法人沖縄県母子寡婦福祉連合会 沖縄県マザーズスクエアゆいはあと 統括責任者 小那覇 涼子 氏 H25.26年度「私たちのめざす母子生活支援施設」（ビジョン）策定特別委員会 副委員長/神奈川県・白百合パークハイム 施設長 森脇 晋 |
| 17:30～18:00 | 休憩 |
| 18:00～20:00 | 交流会 |

【2日目：10月16日（金）】

| | |
|------------|---|
| 9:00～12:00 | テーマ別分科会での自由研究発表 第1分科会 「必要とされる母子生活支援施設を考える」 〔助言者〕 山辺 朗子 氏（龍谷大学 社会学部 臨床福祉学科 教授） 乙部 公裕（全国母子生活支援施設協議会 制度施策委員長/ 三重県・みのり苑） 支援を必要とする母子世帯は増加していくことが見込まれる一方で、現状は施設数や利用世帯数が減少傾向にあり、稼働施設の約半数が暫定定員となっています。本日に支援が必要とされる母子世帯 |
|------------|---|

| | |
|-------------|---|
| | <p>に、支援を届けるためには今、何が必要かを考え、母子生活支援施設の活用可能な機能について今後の方策を研究・討議します。</p> <p>第2分科会 「利用者支援の充実」 〔助言者〕 青木 邦子 氏（（社福）親愛の里 名古屋支援事業所 所長・精神保健福祉士） 渋谷 行成（全国母子生活支援施設協議会 研修広報委員長/東京都・新宿区立かしわヴィレッジ） インケアの充実こそ支援の幅を広げ、地域から求められる施設に成長していくことにつながります。DV、児童虐待による入所の母子、障害のある母子、外国人の母子等の抱えた様々なケースへの支援事例や、母子再統合の取り組み、関係機関との連携について研究・討議します。</p> <p>第3分科会 「地域支援、社会貢献の取り組み」 〔助言者〕 金川 めぐみ 氏（和歌山大学 経済学部 市場環境学科 准教授） 廣瀬 みどり（全国母子生活支援施設協議会 総務委員長/大阪府・東さくら園） 社会福祉法人制度の改革により、地域における公益的な取り組みの実施が社会福祉法人の責務となります。地域に向けた公益活動や、深刻化している社会的孤立などの地域の福祉課題・生活課題への取り組みについて研究・討議します。</p> |
| 12:00～13:00 | 昼食休憩 |
| 13:00～13:35 | 第40回（平成26年度）資生堂児童福祉海外研修報告会 石川県 MCハイツ平和 母子支援員 福富 雅美 氏 |
| 13:35～13:45 | 休憩 |
| 13:45～15:15 | 記念講演 「難しい子と角度を変えて付き合う」 椋山女学園大学 国際コミュニケーション学部 教授・作家 堀田 あけみ 氏 |
| 15:15～15:20 | 大会アピール |
| 15:20～15:30 | 閉会式 |

【タイムテーブル】

| | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|-------|--------|-------|-------------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | | 12:00 | 13:00 | 13:30 | 14:15 | 15:15 | 15:30 | 17:30 | 18:00 | 20:00 |
| 15日 (木) | | 受付 | 開会式 | 行政説明 | 基調報告 | 休憩 | シンポジウム | 休憩 | 交流会 | |
| 16日 (金) | 3分科会での自由研究発表 | 昼食休憩 | 海外研修報告 | 記念講演 | 大会総括 閉会式 | | | | | |
| | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 13:45 | 15:15 | 15:30 | | | | |